



The Nippon Foundation

1-2-2 AKASAKA MINATO-KU TOKYO 107-8404 JAPAN
Tel:(03)6229-5121 Fax:(03)6229-5120

兵庫県タバコフリー協会 会長 藺 潤 様
NPO法人禁煙推進の会えひめ 会長 豊田 茂樹 様
Smoke-Free Kids 主宰 Jeffrey Wigand 様

要望書に対するご回答について

6月27日付け、頂いた要望書に記載された2点につきまして下記のとおりご回答申し上げます。

1. 被災地へのタバコ配布について

3月下旬、日本財団に頂いたタバコ100カートン(1000箱)を震災発生直後から劣悪な環境下で活動を行っている自衛隊の責任者に届けました。

自衛隊員は大規模な救助活動を行うなかで遺体捜索、収容、搬送などを行い、かつて経験したことがないほど多く遺体と対面したことで、強度の精神的ストレス、肉体的疲労を感じ、安全で安心な場所で生活している私たちには想像すらできない苦勞をしています。現地に派遣している財団職員から被災地では自衛隊員もタバコ入手が困難であると報告を受け、喫煙者には作業後の心の疲れを癒し、少しでも気分転換し、安らいでいただくことが必要だと考えました。

2. フィリップモリス社との共同プロジェクトについて

日本財団には震災発生後、インドで物乞いをしているハンセン病の回復者やアフリカの貧しい農民からも寄付が届いており、彼らの善意に応えるためにも全職員懸命の支援活動を続けているところです。

当財団は震災直後に死者、行方不明者1人当たり5万円の弔慰金、見舞金を役職員がその家族に直接手渡しました。またボランティア活動に対しては100万円の活動費を支援し、その数は470件を超えています。政府の対応が遅れるなか、このような迅速かつニーズに即した幅広い活動に、高い評価をいただいております。

私自身雨中での募金活動はもちろんのこと、4度現地入りし瓦礫と化し廃墟となった街並みを目の当たりにし、慣れない避難所で厳しい生活を強いられている被災者の声を直接聞いて、スピードある適切な支援活動を行ってきました。復興への道のりは長く、被災地で

は私たちのような民間組織の力がなければ対応の遅い政府だけではとても救援活動は進まなかったでしょう。

今、全ての国民が願っていることは一日も早い被災地の復興であり、被災者が元の生活に戻ることです。日本がどのように、この震災から立ち直るかが問われ、いまだ多くの人々が支援を待ち望んでいる時に「タバコ会社からの資金」だからといってそれを排除することが、果たして正しい選択なのでしょうか。

ご存知の通りフィリップモリス社からの寄付金は震災により身寄りがなくなった子どもの支援に活用いたします。親が亡くなり心細く寂しい思いをしている子どもたちの悲しみや不安を取り除き、少しでも希望を与えるために役立つなら、たとえ「タバコ会社」から提供された資金であっても、きちんと活用するべきであると考えます。

当財団は、法律で定められたモーターボート競走の交付金で活動していますが、いまだに「ギャンブルからの資金」だと一部から批判を受けることもあります。私たちは世のため、人のために資金を活用することでこの批判に応えているところです。

できますれば、当財団の復興支援活動の趣旨にご理解とご賛同いただき、ご寄付を賜りたくお願いいたします。下記に振込口座を記載いたします。

私は今でもタバコ1箱を1000円にするべきだと考えており、タバコに対する私の考えがぶれたり、変節してはおりません。お互いに今後とも努力して参りましょう。

なお、貴ウェブサイトにも私の回答書を掲載していただきたくお願いいたします。

2011年7月8日

日本財団
会長



【寄付金の振込先】

三菱東京UFJ銀行

支店名：本店

普通口座：0492440

名義：日本財団